

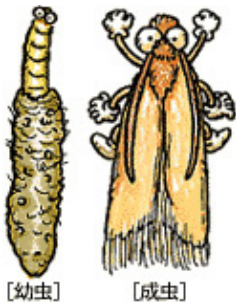
# イガ男とヒメマル子の物語

## (衣類の害虫の生態と予防法)

☆ タンスから取り出した大切な衣類に穴が開いてたとか、クリーニングに出した衣類に穴が開いていたなどの経験はありませんか？  
気がつかない間に傷ついていた衣料、その原因は衣類の害虫による食害の場合があります。この食害について調べてみました。

☆ 衣類に害を与える虫の代表的なものとして、イガ、コイガ、ヒメカツオブシムシ、ヒメマルカツオブシムシなどの幼虫やゴキブリなどが居ます。

コイガの幼虫と成虫



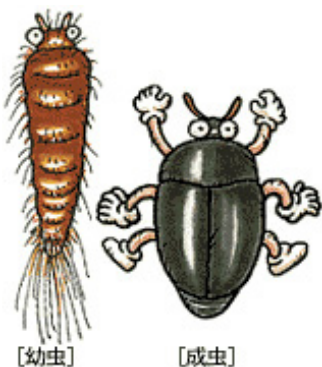
幼虫／体長約 6 ～ 7mm ・ 餌で筒状のまゆをつくる  
成虫／体長約 6 ～ 8mm ・ あわい白色

イガの幼虫と成虫

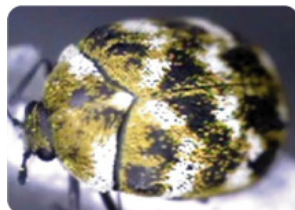


幼虫／体長 7mm ・ 餌で膜状のまゆをつくる  
成虫／体長約 4.5mm ・ あわい灰色

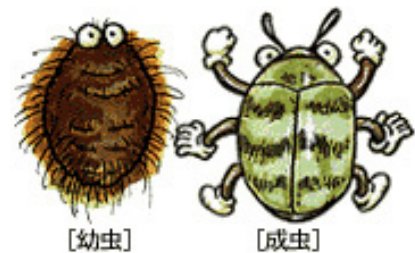
ヒメカツオブシムシの幼虫と成虫



幼虫／体長 5.5mm 前後 ・ 赤褐色  
成虫／体長 4 ～ 4.5mm ・ 黒褐色



ヒメマルカツオブシムシの幼虫と成虫



幼虫／体長 4 ～ 4.5mm ・ 暗褐色  
成虫／体長約 2.5mm 前後  
黒褐色と黄色 ・ 白の斑紋



食害を与えるのは、これらの幼虫なのです。

幼虫が成育する際に餌として動物性蛋白質繊維（羊毛等）を中心に食します。

ゴキブリだけは成虫が餌を食べる際に繊維を食いちぎることがあるので、合成繊維でも切断される場合があります。

☆ 衣類の害虫の生態は？

ヒメマルカツオブシムシの成虫は、四月から五月にマーガレットの花などに蜜を吸いに来ているのを見ることができます。

成虫は白いものが大好きなので、白い洗濯物などについて家の中に入って来る場合が多いと思われます。そしてタンスの中などの暗がりにある衣類に卵を産み付けます。

産卵期は春で、卵から孵った幼虫は蛹期以外のほとんどの時期に衣類などを食します。

ヒメカツオブシムシも同様に孵化後は蛹期以外のほとんどの時期（300日程度）に繊維製品を食します。

これらの幼虫は光を嫌い、繊維の奥へ潜り込んで繊維を食べますから、表面の繊維片が残っていて、一見しただけでは食害にあっているのに気がつかない場合が多い場合が多く、食害の跡は、丸くあいた穴が多いのも特徴です。

また、幼虫には細かな繊毛が生えており、繊維に入り込むと繊毛が引っかかるので、ブラッシングなどで払い落とすことが難しいから厄介です。

イガやコイガは一年中卵、幼虫、成虫が存在するので駆除も大変ですね。特に最近は保温性の高い住まいが増えていきますので生育条件が良くなり、食害の被害も増える傾向にあると言えます。

イガやコイガの幼虫は、食した繊維のカスや排泄物で身体を被う鞘状の棲み家を作りますので、表面から食害を与えるので発見も早く、十分なブラッシングで除去できる可能性は高いでしょう。

食害の痕が汚く見えるのもイガやコイガの特徴です。

これら衣類の害虫は、食用とする蛋白質が少ない場合には汗（皮脂）や食べこぼしが付着した綿繊維などにも害を及ぼすので注意してください。

汚れたままの衣類を収納することは、虫食いの被害を自分自身で拡大していることになることを理解してください。汚れは繊維自体や染色に悪影響を与えるだけでなく、様々なトラブルを巻き起こす危険性が高いものであり、固着した汚れは洗濯でも落としきれない場合もあります。

生まれて直ぐの  
ヒメマルカツオブシムシ

繊維に潜り込んでいる  
ヒメマルカツオブシムシ



食害の跡



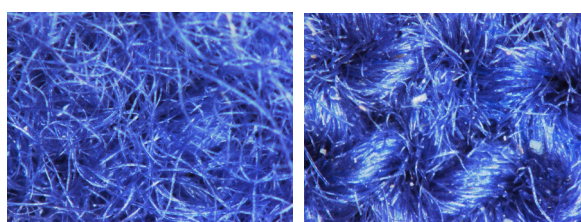
生まれたばかりの幼虫



廻りにあるもので鞘を作るイガ



布地の上に移したイガ



食害に会う前の生地と食べられた後の生地

☆ 防虫剤について（意外と知らなかった落とし穴）

防虫剤は、樟脳（しょうのう）やナフタリン、パラジクロロベンゼン、エムペントリンの4つの種類が多く使用されています。

この中でも樟脳、ナフタリン、パラジクロロベンゼンは混用するとシミを作ることもあるので注意が必要です。

それぞれの防虫剤の特徴は下の表を参考にしてください。

防虫剤の種類	特徴及び禁止事項
エムペントリン (ピレスロイド系)	銅を含む金属製品（真ちゅうなどのボタン）不可 無臭なので有効期間に注意する。 イガ・コイガの卵、幼虫に高い致死効果を示す。
パラジクロロベンゼン	プラスチックフィルムを使った金糸、銀糸（ポリエチレン、ポリプロピレン以外の）やラメ製品、スチロール製品、ひな人形、日本人形、合成皮革不可。 薬剤の拡散が早い。 衣料害虫に対して忌避効果とともに殺虫効果を示す。 昇華性物質の中ではもっとも効力が高い。 ナフタリン、しょうのうとは併用不可。 50℃以上になると溶けてシミになることもある。
ナフタリン	塩化ビニール製品使用不可。 パラジクロロベンゼンに比べ、においては穏やかであり、長持ちするといわれ、人形用や和服用とに好んで使用される。
樟脳（しょうのう）	金糸、銀糸や金箔には、直接触れないようにして使用する。 クスノキから水蒸気蒸留で得られる製油成分。

市販されている防虫剤は揮発性のガスによる忌避効果と致死効果で食害を防ぐのですが、これらのガスは空気より重たいという性質を持つことを皆さん御存知ですか？

忌避効果、致死効果を持つガスが衣類の周辺に存在することが防虫効果の持続に必要ですから、収納する時に使用するためのポイントを知らないと虫食いは防げませんよ。

何が大切か考えてみましょう！！

タンスに防虫剤を入れる場合は、高いところに置かないとガスが衣類に触れることができません。

またタンスの開け閉めが頻繁な場合には、防虫剤のガスが溜まることが出来ないので安心できません。



ハンガーに掛けられた衣類も、密着しているとガスが行き渡りませんので、入れ過ぎに注意しましょう。



畳んで収納する場合にも防虫剤の置く位置を十分に考慮する必要がありますよ。

もちろん、汚れは収納前にしっかりと落としておきましょう！！

親が卵を産み付けるのは汚れ（＝栄養源）の在るところ。キレイな服と汚れた服が一緒だと、折角のきれいな服が食害にあってしまうことも多いのです。



特にカシミヤのような柔らかい高級獣毛などは幼虫達の大好物！！ グルメなイガ男やヒメマル子たちが大移動してくるかも！？

収納後の手入れ次第では台無しになってしまったり、折角着ようと思ったら穴が開いていたという泣くに泣けない状況に見舞われることになってしまいます。

## ☆ 虫食いを防ぐには

イガ男君たちを防ぐには、お部屋をしっかりと掃除して、隅々のホコリを残さないこととブラッシングでホコリや幼虫を払い落としておくことが必要でしょう。

ヒメマル子ちゃんたちを防ぐなら、春先に菊科の花（マーガレットやカラーの花）を室内に置くときには事前にしっかりと虫が居ないことを確認したり、洗濯物を取り込む時に外でしっかりと叩いて、成虫を室内に入れないことが大切です。

また、台所などに置いてある乾物なども時々チェック！！ カツオブシムシを見つけたら、虫食い被害に遇う危険性がとっても高いと思ってください。

被害に遇うも遇わないも貴方次第！！